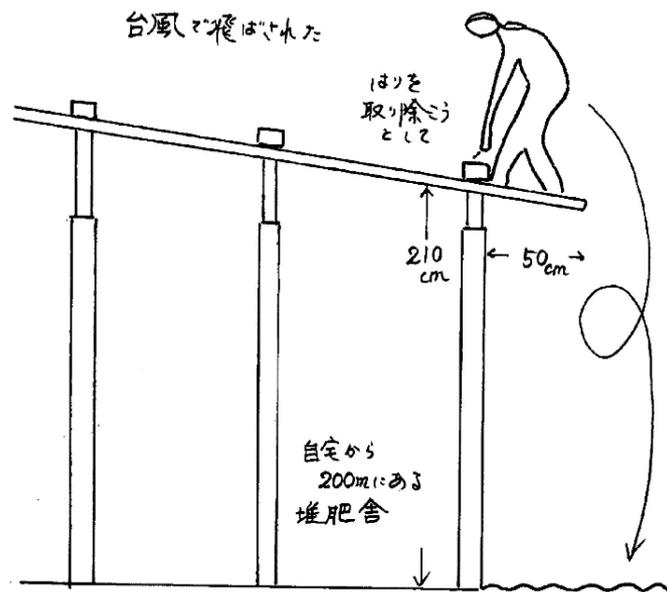


まで行き、自分で軽トラックを運転して 200m先の自宅に帰った。電話で奥さんと呼んで、色々医療機関を電話したが、土曜日だったので入院できず、そのまま土日をおとした。

その間に、一頭一頭の餌のやり方を奥さんに指示した。月曜日に奥さんに運転をしてもらい病院へ行った。即入院だった。両足踵骨骨折、月曜日から 70日間入院した。踵の骨は、スパッと切れたような折れ方であったので、足にはギブスはせずに、1週間、足の甲に重り（布団）

を載せて踵の骨が付くようにしていた。本人は棒高跳び、高跳び、長距離などの選手でスポーツは得意であった。単に墜落せず、宙返りしたのも、それらの運動を経験されていたためと考えられる。現在は、全く違和感はない。



* 事故原因

高所に昇る時には、常に転落の危険性を前提にした事前の対策が必要と考えられる。今回の場合、かなり梁と横梁が強くくっついており、それを無理力任せで、引きはがそうとした。その結果、弾みをくらった訳だが、ある程度試みて、無理であれば、別の方法も考えても良かったのではないかと。

なお、今回は特に頭は打っていないが、やはりヘルメットの着用を常態化する癖が必要と考えられる。幸い、高飛びや走り幅跳びなどをされていて、普通の人では出来ないような、宙返りをして両足で着地されたのには、驚きである。

⑤サイロの縁から足を踏み外して落下し、大腿骨頸部骨折・硬膜下血腫

(平成22年 9月 午後4時頃、前庭、男性・61歳)

自宅敷地内にあるサイロの機密性を高めるために、当日デントコーンを張り込んだ（詰め込んだ）3本のサイロの蓋周辺にホースで水を回した。

最初に登った一番端のサイロに戻って降りようとして、蓋周囲伝いに歩く途中、2本目のサイロの上から、右足を滑らせて地面に落下した。この時、サイロ近くに降りると、取り出し用の丸ハンドルにぶつかってしまうので危ないと思い、サイロから少しでも遠くに落下するようにしたつもりである。サイロから 2.4m 離れて、右足で落下、受け身をするように1回転し、座った状態になった。

すぐ近くでは、奥さんと息子さんが作業をしていた。初め痛みは感じなかったが、立と

うとした時、痛くて立ち上がれず、近くにいた息子に身体の右側を抱えてもらって 30m 先の自宅まで戻った。

整形外科医院に電話し、息子の車に 3 人が乗って行った。10 分弱で到着。診察の結果、骨折を疑って総合病院を紹介され、翌々日（月曜日）に受診した。病院へは妻の運転により朝一番で受診。9 時前に到着し、すぐに手術。ピンを 2 本入れた。右大腿骨頸部骨折、40 日入院し、月 1 回通院（3 ヶ月間）。

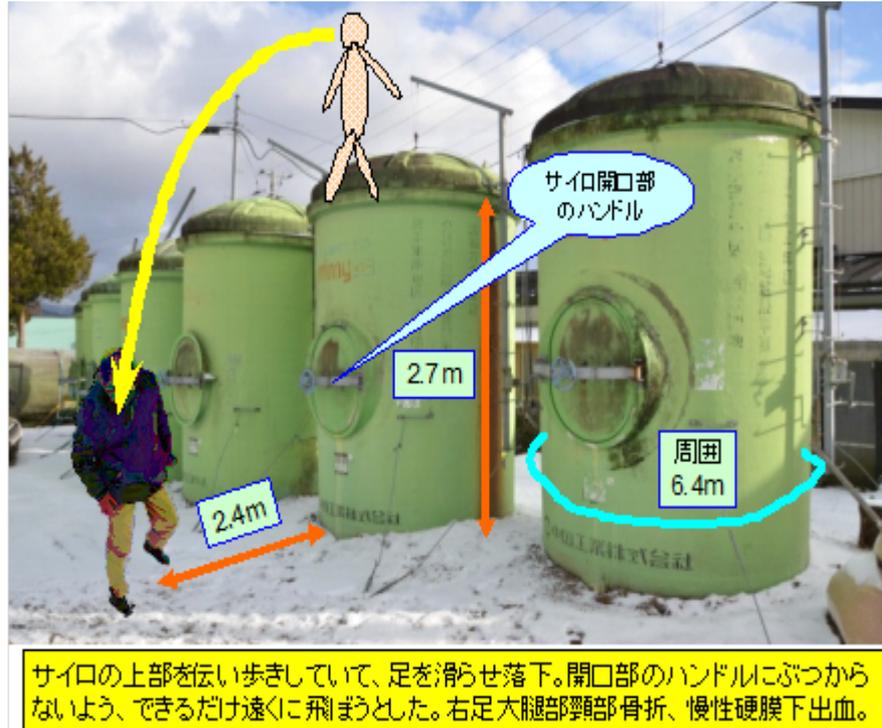
入院中から眼の奥が痛み、左片麻痺、意識混濁、動揺性歩行が出て、退院後約 1 週間位で息子の運転で病院を受診。翌日、慢性硬膜下血腫の診断で穿孔洗浄術施行。20 日ほど入院し、2 週に 1 回 3 ヶ月間通院。術後 3 日で管を抜いて、自力歩行可能となる。

自分では記憶にないが、病院では、サイロから落ちた時に頭を打った疑いがあるとされた。

* 事故原因

各サイロには、昇降用の鉄製はしごが付いているので、それぞれのサイロを上り下りすれば良いのだが、サイロ間が狭いのと面倒なので、サイロの上を伝って一番端のサイロから上り下りしている。向い側にある大きなサイロには購入時から上に手すりが回してあったが、落ちたサイロは容量が小さく、高さも低いためか、手すりは初めから付いていなかった。サイロの蓋の上に付いている支柱はぐらぐらして、捕まっても不安定である。

産業労働の分野では 2 m を越えての高所作業では、落下防止の策を講じる事になっている。今回の事例の場合、容量が少ない、多いには関係なく 2.7m の高さがあれば、当然手すりなどを設置されなければならない、メーカーの対応が求められる。

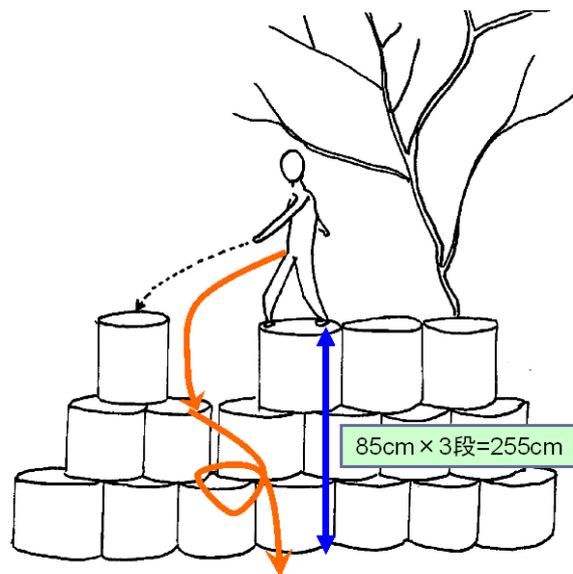


⑥ロールベールの上を渡り歩いていて3段目から転落、左大腿筋断裂

(平成24年 9月 11時頃、畑、男性・61歳)

3段重ねのロールベール（1個・高さ85cm×直径90cm、イタリアンライグラス）の3段目に乗り、ロールベールの積み重ねてある横の柿の木に、カラスよけの「おどし」をつけて、降りるため隣のロールベールに移ろうとした。ところが、その間の3段目のロールベールが抜かれていた。（理由不明）ご本人は、その間を飛び越えることができると思って、飛び越えようとしたが、その幅が、積み重ねられている間隔がわずかに広く、抜けていたロールベールの間の2段目に肩から転落、さらに地面まで1回転して両足で着地し、お尻を着く。立ち上がろうとした時、左脚がバキバキと音がした。

立ち上がろうとしたが、しばらくは立ち上がれなかった。そこにあった竹を杖棒にして、家に帰り、車でかかりつけ医に行った。左大腿部打撲、湿布をもらって2週間安静にしていた。娘さんが手伝いに来てくれ何とか乗り切った。



* 事故原因

カラスよけの「おどし」を取付けて降りるときの事故である。一つのベールがすでに使われていて、穴になっていた。通常は飛び越えることが出来るのだが、たまたまその部分が広く開いていた。実際は、もう1段降りてから下に降りれば良かったのだが、端の方の段になっている所から降りようと思って飛び越えようとした。今考えると、穴になっている段から降りていけば良かったと思っている。

隣のロールベールに移ろうとして、2段目に肩から落ち、一回転して地面に両足で着地後、尻餅をつく。左大腿部打撲